

8月28日（火）・29日（水）



第4トレンチでは、貝層が斜面に向かって広がっているのが確認されました。



写真左側が、斜面方向。



第5トレンチの表土層からは、蹄鉄が発見されましたが、明治時代以降のものと思われます。



8月28日、29日には、M大学のA先生と学生さんたちが訪れ、ボーリングによる旧地形の調査を実施しました。調査した場所は、平成20年度に調査して、縄文時代後期の貝層が確認されたD貝塚西部の地点と、今回の第4トレンチの南側（斜面側）の地点です。D貝塚西部では、基盤のシルト層の直ぐ上から、貝が堆積していることがわかりました。一方、第4トレンチ南側では、基盤のローム層が斜面に向かって急激に落ち込んでいることと、そこに貝層が厚く堆積していることが確認されました。



ボーリングの先端。ここで土や貝のサンプルが採取できます。



採取した土壌を観察しています。